

蓄 - つぼみ -



2021.5.12

◆コロナ禍でどのように情報を得るか◆

昨年度は、コロナ禍で多くの学校がオープンキャンパスを中止するなど、例年とは異なる状況でした。この傾向は、今年も続くと思われます。そこで皆さんに伝えておきたいのは、情報に踊らされず冷静に情報を得る、ということです。このご時世、Google 等で検索すれば、沢山の情報がすぐ手に入ります。しかし、本当にそれは正しい情報なのか、と一歩立ち止まって考えてみてください。特に、口コミは個人差が大きく、事実でないことも多くあります。ネットの情報は参考程度にとどめておくといよいでしょう。大学のパンフレット等も参考になりますが、その際、1校だけをみるのではなく、複数校を比較してみることが大切です。比較することで、学校ごとの違いが浮き彫りになり、学校の特色が見えやすくなります。（こうして調べたことは、志望理由書作成の際にも力を発揮します。）また、学校によってはオンラインで説明会を実施するところも増えています。進路室にある先輩方の「受験レポート」も、大いに役立つはずで、どのような状況であれ、常にアンテナをはり、自分から積極的に調べようとする姿勢が、成功への大きな鍵となります。受け身ではなく、自ら動きましょ。もし困ったことがあれば、担任の先生や顧問の先生、進路の先生など周りの先生に相談してみてください。その時は一緒に悩みましょ。

◆先生インタビュー◆

先生方がどのように考え、悩み、進路を決定したのかを、インタビュー形式で皆さんにご紹介します。記念すべき一回目は、3学年主任の染谷拓郎先生（保健体育科）です

Q 先生が教員を目指そうと思ったきっかけを教えてください。

A 私は小学生の頃、運動が大の苦手でした。特に、水泳では全く泳ぐことができませんでした。そんな私が小五の時、体育の先生が水泳の特訓授業を開いてくれました。期間は夏休み中毎日です。その猛特訓のおかげで、夏が終わるころにはなんと50mを泳げるようになりました。それから運動が楽しいと思うようになり、また得意にもなりました。こうした経験から、運動ができるようになる喜びや、やればできるということ、多くの子どもたちに実感してもらいたいと思うようになり、教員を目指しました。

Q 高校卒業後の進路は、どのようにして決めましたか。

A スポーツ関係を学びたいという思いがあったので、初めは専門学校への進学を考えていました。ですが、スポーツの楽しさを伝えるためには教員だと考え、教員免許の取得できる大学への進学を決めました。

Q 高校時代、やっておいてよかったと思うことを教えてください。

A 部活動です。毎日のように「やめたい」と思っていたが、続けていたからこそ今があると思います。やはり、継続は力なりです。

Q 高校時代、やっておけばよかったと思うことはありますか。

A いっぱいあります。高校時代にしかできないこと（部活以外のこと）でしょうか。特に、英語をもっと勉強しておけばよかったと思っています。日本男児であっても、英語は勉強すべきです。ちなみに、大学に入っても英語の授業はありますが、基礎からやるということはないので、大学では苦労しました。

Q 最後に、イチカシ生に一言

A 失敗を恐れてチャレンジしないのはダメです。どうせできないではなく、何か行動に移すべきです。行動した結果がダメであっても、それは必ずよい経験になります。